

I 神から離れ罪あるすべての人の現実。私自身が、主の恵みなしに生きる姿。

1. 当時：ユダヤ人と異邦人との間には、「隔ての壁」：14があり、「敵意（敵対）」：14があった。神がユダヤ人をお選びになったのは、彼らが生ける唯一の神を全世界の人々に証しする為（「あなたがたはわたしにとって祭司の王国」＝異邦人を神に導く仲立ちの使命・真の神を世界に伝える使命を負わされた国民）出19：6、「あなたの御救いがすべての国々の間に知られるためです」詩篇67：2）・すべての民族が祝福される為（「地上のすべての民族は、あなたによって祝福される」創世記12：3、22：18）でした。主に救われ霊的なイスラエルとされた私達（ローマ9：6-8、ガラテヤ3：7、29、6：16）にも世界に主を伝える使命（マタイ28：19、20、「あなたがたは、選ばれた種族、王である祭司…です。それは、あなたがたを、やみの中から、ご自分の驚くべき光の中に招いてくださった方のすばらしいみわざを、あなたがたが宣べ伝えるためなのです」Iペテロ2：9）があるのです。神の選びには大きな使命が伴っており、その使命を謙遜に果たしていく事が彼らの正しい応答だったのです。しかし、ユダヤ人は特権が与えられて傲慢になってしまい、自分達も律法を守ることが出来ないのに他国人を差別し、見下げ、軽蔑し、敵意を持つようになりました。私達はどうでしょう？神から才能や経済や賜物、能力、恵みが与えられると神に感謝せず、神の栄光の為に用いる事をせず、高慢になり、心のどこかで他の人を見下したりしないように注意したい。また、当時の異邦人、ギリシャ人、ローマ人も、ユダヤ人を忌み嫌い、敵意を持っていた。私も、主の恵みがなければ、敵意を持ち易い人間です。

2. ユダヤ人と異邦人だけではなく、私達の間にも、昔も今も、国々、人種、職場、学校、家庭、あらゆる人々の間に「隔ての壁・敵意」、争いがある。その根本的な原因は・根は、私達人間、世界中のすべての人の中にある罪（真の平和の源である神に背き、神から離れている罪）です。：14の「敵意」と同じ言葉の箇所→「肉（神から離れた私達の生来の性質・罪が支配する原理。キリストがかしら、支配者ではなく、自分、自我が支配者）の思いは神に反抗（敵対、敵意）する」（ローマ8：7）。「肉（私達の中にある罪の性質）の行いは明白であって…淫らな行い、汚れ、好色、偶像礼拝（真の神ではないものを礼拝する、むさぼり、貪欲。エペソ5：5）、魔術、争い、そねみ、憤り、党派心、分裂、分派、ねたみ、泥酔（酒に支配される）、遊興（神の喜ばれない悪い遊びにはまる）」（ガラ5：20、21）。※これらの罪は、他人事ではない。私達の心にもある。もし私達が、主を信じ主に守られて来なかったなら、これらの罪に支配され、もっと悲惨な人生を送っている事だろう。主の救いと守りを感謝します！私達は、すべての国々の人を差別せず、愛して下さる神から離れていると、人々に対して、職業、学歴、立場、能力、富、言葉、人種、国、考え方の違いにより差別、隔ての壁、敵意、憎しみを持つようになる。

II 主の先行する恵み＝隔ての壁、敵意を打ち壊し、真の平和を実現する素晴らしい方がおられる！

1. 「キリストこそ私たちの平和であり」：14。クリスマスに生まれ、十字架で私達の罪のために死なれたキリストこそ①私達と神との平和②神が赦された自分を自分でも受け入れる自己受容の平和③私達が主に愛され赦されたように、隣人を愛し赦す事による平和を実現するお方。

2. 「二つのものを一つにし」：14。敵対していたユダヤ人と異邦人（私達を含む）を一つにして下さった。主の十字架の救いの御業の中で。敵対している私達が自分達の力で平和をつくることはできない。真の平和は、私達の修行や頑張りによるのではなく、真の平和を与えて下さる主を信じ、主が与えて下さる神との平和（神の赦し）、自分の心の平安、主の愛をいただいて他の人を赦し愛する平和によって実現する。

3. 「隔ての壁を打ち壊し」：14。「打ち壊し」の原語の意＝解く、ほどく、解き放す、滅ぼす、破壊する。主は私達の敵意、差別、不品行、偶像礼拝の罪を背負って十字架で身代わりに死なれた。その十字架の御業の中で、私達の隔ての壁、敵意を打ち壊して下さった。あとは、世界中の国々のすべての人種の人々、私達が、平和そのものであるキリストのもとに行き、主を信じて主の救い、主が既に獲得された・成就された恵み、平和を受け取る時、隔ての壁、敵意、差別から解放されて行く。そして、一度限りではなく、絶えず主のもとに行き、恵みを受け続けるのです。敵意やまだ赦せていない心を包み隠す事無く主に打ち明け、正直な心を注ぎ出し、愛を求めて神に祈る事が出来るのです。神は私達の力では決して生み出せない大きな愛を私達の心に注いで下さいます。ローマ5：5。主なる神はすべての人種を差別せず、愛し、救いに招き、隔ての壁を取り除いて下さる素晴らしいお方です！主は私達を人種、学歴、職業、能力等で差別する方ではありません。「神にはえこひいき（別け隔て）などはないからです」ローマ2：11。「新しい人は、それを造られた方のかたちにしたがって新しくされ続け、真の知識に至ります。そこには、ギリシャ人もユダヤ人もなく、割礼のある者もない者も、未開の人も、スキタイ人も、奴隷も自由人もありません。キリストがすべてであり、すべてのうちにおられるのです」コロサイ3：10, 11。真の平和を実現して下さる主のもとに行きましょう。主を信じた後も真の平和を与えて下さる主のもとに行きましょう。私も、日々、主のもとに行っています。主からの一日に心を置いて！

Ⅲ 先行する神の恵みへの応答

1. 神の恵みを数え、神への心からの感謝、礼拝を心から奉げる。神は礼拝を最も喜ばれる。
2. まず自分自身が神の恵みを受け続けて、神の恵みの福音を全世界に、家族、隣人に伝えて行く。「聞いたことのない方を、どのようにして信じるのでしょうか。宣べ伝える人がいなければ、どのようにして聞くのでしょうか」ローマ10：14。神が主を伝える人を私達に遣わされた恵みを感謝したい。
3. 自分だけで、世界中に出かけて福音を伝える事は無理なので、各宣教師の為に祈り、支援のささげ物をしていく事で世界宣教の業に参加する恵みに与る。当教会で救われた有澤宣教師を当教会から遣わしている事は大きな祝福です。有澤宣教師は、今、タイの方々に福音を伝えておられる。私達も、祈り支援する事により世界宣教に参加している。※最近、今年1月～6月までの有澤宣教師ご夫妻への献金は、必要に対して、69%の献金の状況で、31パーセント不足していることが分かりました。主と先生ご夫妻を愛し、一人でも多くの人々の救いの為に、心から奉げましょう。「受けるよりも与えるほうが幸いである」使徒20：35。献金の額を気にされる必要はありません。匿名の献金箱に、お奉げしましょう。「私たちは御手から出たものを…献げたにすぎません」Ⅰ歴29：14
4. 信仰継承＝JEC A地区の目標。全教団の課題、目標。子供達を、次の世代を担う人々を神の家族である教会全体で育てて行く。その為に、若者担当の働き人が与えられるように、熱く祈り求めたい。若者の為の働き人は、若者に寄り添い、励まし、共に遊び、学び、共に食し交わる。「若者の為の働き人が与えられますように」との一致した祈りに主は応えて下さる。子供達は、信仰を持ち、ある人は職業を持ち教会を支え、ある人は教職者として仕える。子供達を愛して育てる教会は教会全体が祝福される。
5. 恵みへの感謝を忘れず、すべての必要が与えられるように、信仰を持って祈りましょう。「神は、キリスト・イエスの栄光のうちにあるご自分の豊かさにしたがって、あなたがたの必要をすべて満たしてください」ペリピ4：19。祈りには2種類の祈りがあります。①不信仰と明日の事を心配したままの祈りと②真に必要なものなら、全能の神は必ず必要を満たして下さると本気で神を信頼して祈る祈りです。神は私達の信仰を見て、御業を成されます。一致した信仰ある祈りは、神が働かれる力です！